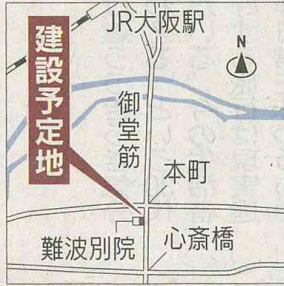


大阪に寺院一体ホテル

積水ハウスと東急



積水ハウスと東京急行電鉄は2019年にも、境内を気軽に散策するなど仏教を身近に感じられる寺院一体型のホテルを大阪市内に開業する。

訪日客が文化体験

寺院の敷地に積水ハウスがビルをつくり、東急がホテルを運営する。ビルは中央部を通り抜ける構造にするもよう。寺院の正門を兼ねる。関西を訪れる訪日外国人が増え続けており、日本文化を体験できる施設を整えて宿泊客を取り込む。

宗大谷派難波別院の一角に17階建てのビルを建てる。同院は約400年の歴史があり、観光客が多いミナミに近い。このほど積水ハウスグループの積和不動産関西（大阪市）が敷地内の土地2600平方メートルを60年間借りる契約を結んだ。建物全体の投資額は50億〜100億円の見通し。

上層階に都市型ホテル「エクセルホテル東急」が入居する。350室程度で、部屋から難波別院を眺めたり別院で僧侶の説教を聞いたりできる。宿泊料金は1室1泊2万〜3万円とみられる。建物の1〜4階部分には信徒が集まる会議室や一般商業施設のテナントも入る。中央部の低層階を外から通り抜けられるようにして難波別院の正門を兼ねる。参拝者は御堂筋からこの門を通り抜けて本堂にお参りする。

る。関西国際空港に乗り入れる格安航空会社（LCC）の増加で大阪を拠点に京都など関西各地を訪れる外国人が増えている。旅行者の目的は買い物から日本文化の体験に変わりつつあり、観光名所に宿泊施設を設ける動きは各地に広がりそう